

本書の使い方

1 病名から保険適応が知りたい場合

病名から探す索引 (p. ix ~) で調べる

例 「歯冠周囲炎」で抗菌薬を処方したい

歯冠周囲炎 {歯冠周囲炎、智歯周囲炎 (perico)}
..... → 抗菌薬 p.2 ~ 18

※ ICD-10 (International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems: 国際疾病分類) で電子カルテ用標準病名として使用されています。

抗菌薬であれば一般的には歯冠周囲炎、歯周組織炎、顎炎の歯科適応があるけれど、念のため調べてみると...

一般名 **エリスロマイシンエチルコハク酸エステル**
(代表商品名: エリスロシン[®]ドライシロップ)

歯科の適応 ①外傷・手術創等の二次感染、②副鼻腔炎、③リンパ節炎

レセプト上の病名 ICD-10 ①外傷性顎関節炎、口唇・顔面の挫傷、口腔・口唇・口角の挫創、口唇・顔面の擦過傷、口腔・口唇・歯肉・上唇小帯・舌・顔面の裂創、口腔・口唇・歯肉・舌・顔面の切創、上顎骨・下顎骨骨折、下顎関節突起骨折、咬傷、歯の脱臼の二次感染、術後創部感染、抜歯後感染、抜歯窩治癒不全、ドライソケット
*手術創: 抜歯以外の手術の感染病名 (歯根端切除、粘液嚢胞摘出、膿瘍切開、腫瘍切除、縫合術など)

②菌性副鼻腔炎
③顎下リンパ節炎、頸部リンパ節炎

用法・用量 エリスロマイシンとして1日800~1,200mg (力価) を4~6回に分割経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。

併用禁忌薬 エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン、ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩、ピモジド、アスナブレビル

処方上の注意
・剤型にはドライシロップ10%、20%/顆粒20%がある。
・歯冠周囲炎の適応なし。

疑問解消

「エリスロシン[®]ドライシロップ」は歯冠周囲炎の適応がなかった!
⇒ 保険適応外とされてしまう可能性あり

2 疑義照会があった場合

薬の名前から探す索引 (p. xii ~) で調べる

例 智歯周囲炎に対して抜歯前に処方した「プラノプロフェン」に対する疑義照会

ブコローム 31
フラジオマイシン硫酸塩 34
プラノプロフェン 26
フラビタン 48

p.26 「プラノプロフェン」を参照してみると...

一般名 **プラノプロフェン** (代表商品名: ニフラン[®])

歯科の適応 ①歯根膜炎の消炎・鎮痛、②外傷後、小手術後並びに抜歯後の消炎・鎮痛

レセプト上の病名 ICD-10 ①急性化膿性歯根膜炎、外傷性歯根膜炎
②外傷性顎関節炎、顎関節部・口腔・口唇・上顎・下顎・顔面の打撲、口唇・顔面の挫傷、口腔・口唇・口角の挫創、口唇・顔面の擦過傷、口腔・口唇・歯肉・上唇小帯・舌・顔面の裂創、口腔・口唇・歯肉・舌・顔面の切創、上顎骨・下顎骨骨折、下顎関節突起骨折、咬傷、歯の脱臼、抜歯後疼痛、抜歯後感染、術後疼痛、術後創部感染、抜歯窩治癒不全、ドライソケット
*手術: 抜歯及び各種手術の病名 (歯根端切除、粘液嚢胞摘出、膿瘍切開、腫瘍切除、縫合術など)

用法・用量 プラノプロフェンとして、1回75mgを1日3回食後に経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。頓用の場合には1回75mgを経口投与する。

併用禁忌薬 なし

禁忌事例
・消化性潰瘍のある患者
・重篤な腎機能障害のある患者
・重篤な肝機能障害のある患者
・重篤な高血圧症のある患者
・重篤な心機能不全のある患者
・アスピリン喘息又はその既往歴のある患者
・妊娠末期の女性

処方上の注意
・剤型には錠75mg、カプセル75mgがある。
・抜歯後の適応はあるが、智歯周囲炎、歯痛の適応はない。

疑問解消

智歯周囲炎の適応がない医薬品を処方してしまっていた!

・本書の情報は2023年6月現在のものです。
・本書で取り上げる製剤の解説には、一部適応外(承認外)使用も含まれます。実際の使用にあたっては、必ず該当する最新の添付文書を確認し、その内容を十分に理解したうえでご使用ください。
・本書の編集制作に際して、できるだけ正確を期すよう最大限努めておりますが、全ての情報について完全かつ最新のものである保証はございません。医療や技術の進歩等により、記載情報は更新されることがあり、その場合、従来の治療や製剤の使用による不慮の事故等に対し、编者・著者および弊社は責任を負いかねます。
・本書掲載の製剤は2023年6月時点で公開されている添付文書に基づいています。製剤情報は変更される可能性があり、また製剤自体が予告なく販売中止される可能性がありますので、使用時には最新の添付文書をご確認ください。

病名から探す索引 ix

薬の名前から探す索引 xii

1 | 抗菌薬 2

(1) ペニシリン系内服薬	アンピシリン水和物 2
	アモキシシリン水和物 3
	バカンピシリン塩酸塩 3
	アモキシシリン水和物・クラブラン酸カリウム 4
	スルタミシリントシル酸塩水和物 4
(2) セフェム系内服薬	セファレキシン 5
	セファレキシン複合顆粒 6
	セファクロル 7
	セファクロル複合顆粒 7
	セフロキシム アキセチル 8
	セフジニル 8
	セフジトレン ピボキシル 9
	セフテラム ピボキシル 9
	セフボドキシム プロキセチル 10
	セフカベン ピボキシル塩酸塩水和物 10
(3) ペネム系内服薬	ファロペナムナトリウム水和物 11
(4) テトラサイクリン系内服薬	テトラサイクリン塩酸塩 11
	ドキシサイクリン塩酸塩水和物 12
	ミノサイクリン塩酸塩 12
(5) マクロライド系内服薬	エリスロマイシンステアリン酸塩 13
	エリスロマイシンエチルコハク酸エステル 13
	クラリスロマイシン 14
	ロキシスロマイシン 14
	アジスロマイシン水和物 15
	ジョサマイシン 15
(6) リンコマイシン系内服薬	クリンダマイシン塩酸塩 16
(7) ニューキノロン系内服薬	オフロキサシン 16
	レボフロキサシン水和物 17
	塩酸ロメフロキサシン 17
	トスフロキサシントシル酸塩水和物 18
	シタフロキサシン水和物 18

2 | 消炎鎮痛薬 19

アセトアミノフェン 19
ロキソプロフェンナトリウム水和物 20
ジクロフェナクナトリウム 21
メフェナム酸 22
セレコキシブ 23
トラマドール塩酸塩・アセトアミノフェン配合剤 23
ナプロキセン 24
アスピリン 24
アスピリン・ダイアルミネート 25
イソプロピルアンチピリン・アセトアミノフェン・アリルイソプロピル アセチル尿素・無水カフェイン 25

シメトリド・無水カフェイン 26
プラノプロフェン 26
フルフェナム酸アルミニウム 27
チアラミド塩酸塩 28
ロルノキシカム 28
アセメタシン 29
イブプロフェン 29
オキサプロジン 30
エトドラク 30
ザルトプロフェン 31
ブコローム 31
トラマドール塩酸塩 32

3 | 口腔用薬 33

(1) 含嗽・洗口薬・口腔内炎症治療薬	アズレンスルホン酸ナトリウム水和物 33
	アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・炭酸水素ナトリウム 33
	フラジオマイシン硫酸塩 34
	ベンゼトニウム塩化物 34
	ポビドンヨード 34
(2) トローチ剤	セチルピリジニウム塩化物水和物 35
	テトラサイクリン塩酸塩 35
	デカリニウム塩化物 35
	ドミフェン臭化物 36
(3) 口腔用軟膏剤	エビジヒドロコレステリン・テトラサイクリン塩酸塩 36
	オキシテトラサイクリン塩酸塩 36
	オキシテトラサイクリン塩酸塩・ヒドロコルチゾン 37
	クロルヘキシジン塩酸塩・ジフェンヒドラミン配合剤 37
	デキサメタゾン 37
	トリアムシノロンアセトニド 38
	ヒドロコルチゾン酢酸エステル・ヒノキチオール配合剤 38
	ミノサイクリン塩酸塩 38
(4) その他口腔用薬	トリアムシノロンアセトニド 39
	ベクロメタゾンプロピオン酸エステル 39
	リン酸二カリウム・無機塩類配合剤 39

4 | 抗真菌薬 40

アムホテリシン B 40
ミコナゾール 40
イトラコナゾール 41
クロトリマゾールトローチ 41

5 | 抗ウイルス薬 42

アシクロビル 42
バラシクロビル塩酸塩 42
アメナメビル 43
ビダラビン 43

6 | 消化器用薬 44

セビメリン塩酸塩水和物 44
ピロカルピン塩酸塩 44
ポラプレジンク 44

7 | 漢方薬 45

立効散 45
黄連湯 45
五苓散 45
排膿散及湯 46

半夏瀉心湯 46
 白虎加人参湯 46
 茵陳蒿湯 47
 桂枝加朮附湯 47

8 ビタミン 48

フラビンアデニンヌクレオチド 48
 リボフラビン酪酸エステル 48
 ニコチン酸アミド 48
 ビリドキサルリン酸エステル水和物 49
 ビリドキシン塩酸塩 49
 メコバラミン 49
 ビフロキシシン・ビリドキシン配合錠 49
 ベンフォチアミン・ビリドキシン塩酸塩・シアノコバラミン 50
 オクトチアミン・リボフラビン・ビリドキシン塩酸塩・シアノコバラミン配合剤 50
 フルスルチアミン塩酸塩、ビリドキサルリン酸エステル水和物、ヒドロキソコバラミン酢酸塩配合剤 50

9 副腎皮質ステロイド 51

プレドニゾン 51
 メチルプレドニゾン 51
 ヒドロコルチゾン 52
 コルチゾン酢酸エステル 52

10 神経痛治療薬 52

カルバマゼピン 52
 アミトリプチリン塩酸塩 53
 イミプラミン塩酸塩 53
 プレガバリン 53

11 止血薬 54

カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム水和物 54
 トラネキサム酸 54
 トロンピン 54

12 小児薬 55

(1) 抗菌薬 ①ペニシリン系内服薬

アンピシリン水和物 55
 アモキシシリン水和物 56
 バカンピシリン塩酸塩 56
 アモキシシリン水和物・クラブラン酸カリウム 57
 スルタミシリントシル酸塩水和物 57

②セフェム系内服薬

セファレキシン 58
 セファレキシン複合顆粒 59
 セファクロル 59
 セフジトレン ピボキシル 60
 セフテラム ピボキシル 60
 セフカベン ピボキシル塩酸塩水和物 61

③ペネム系内服薬

ファロペナムナトリウム水和物 61

④マクロライド系内服薬

クラリスロマイシン 62
 アジスロマイシン水和物 62
 ジョサマイシン 63

⑤リンコマイシン系内服薬

クリンダマイシン塩酸塩 63

(2) 消炎鎮痛薬

アセトアミノフェン 64
 ジクロフェナクナトリウム坐剤 64
 イブプロフェン 65

あ

アフタ性口内炎・孤立性アフタ
 → 含嗽薬・トローチ p.33～36
 → 軟膏 p.37
 → 漢方薬 p.45～47
 → ビタミン p.48、49

壊死性潰瘍性歯肉炎

..... → 「びらん・潰瘍の二次感染」参照

か

外傷・手術創等の二次感染 {擦過傷 (擦り傷)、切創 (切り傷)、裂創 (割れた傷)、咬傷、挫創、刺創 (刺した傷)、術後創部感染、手術創部膿瘍、創傷感染症など}
 → 抗菌薬 p.2～18
 → 軟膏 p.37

外傷痛 (外傷性顎関節炎、顎関節部・口腔・口唇・上顎・下顎・顔面の打撲、口唇・顔面の挫傷、口唇・顔面の擦過傷、口腔・口唇・歯肉・上唇小帯・舌・顔面の裂創、口腔・口唇・歯肉・舌・顔面の切創、裂創、割創、上顎骨・下顎骨骨折、下顎関節突起骨折、咬傷など)
 → 消炎鎮痛薬 p.19、20、22～31

潰瘍性口内炎

..... → 「びらん・潰瘍の二次感染」参照

顎炎 {ビスフォスフォネート関連顎骨壊死、骨吸収抑制薬関連顎骨壊死、放射線性下顎骨髄炎、顎骨髄炎、顎骨骨膜炎、顎骨骨膜下膿瘍 (AA)}
 → 抗菌薬 p.2～12、14～18

顎下リンパ節炎

..... → 「リンパ節炎」参照

顎関節症

..... → 消炎鎮痛薬 p.19～21、24

顎骨骨髄炎

..... → 「顎炎」参照

顎骨骨膜下膿瘍 (AA)

..... → 「顎炎」参照

顎骨周囲炎・蜂巣炎 (口腔の蜂巣炎、オトガイ下膿瘍、顎下部膿瘍、口底膿瘍、口底蜂巣炎、頬部蜂巣炎など)
 → 抗菌薬 p.4、16

化膿症

..... → 漢方薬 p.46

化膿性唾液腺炎 (化膿性唾液腺炎、小唾液腺炎、慢性唾液腺炎)
 → 抗菌薬 p.5、8、12、15、17、18
 → 副腎皮質ステロイド p.51

癌性疼痛

..... → 消炎鎮痛薬 p.19、32、52

顔面神経麻痺

..... → 副腎皮質ステロイド p.51、52

急性化膿性根尖性歯周炎 (per)

..... → 「歯周組織炎」参照

..... → 「歯痛」参照

頬部蜂巣炎

..... → 「顎骨周囲炎・蜂巣炎」参照

口角炎

..... → ビタミン p.48、49

口腔カンジダ症

..... → 抗真菌薬 p.40、41

口腔乾燥症

..... → 漢方薬 p.45、46

..... → その他 p.39、44

口腔創傷 {口腔粘膜や口唇の挫傷 (挫滅した傷)、咬傷、裂創 (割れた傷)、口腔刺創 (刺した傷)、口腔切創 (切り傷)、抜歯創、口腔手術創} の二次感染
 → 抗菌薬 p.2、3、5～18
 → 含嗽薬・トローチ p.33～36

口腔内の消毒

..... → 含嗽薬 p.34

口唇炎

..... → ビタミン p.48、49

口唇ヘルペス

..... → 抗ウイルス薬 p.42、43

口内炎、感染性口内炎、難治性口内炎 (再発性アフタ、アフタ性口内炎、ベドナーアフタ、ヘルペス性口内炎、義歯性口内炎、義歯性潰瘍、口腔褥瘡性潰瘍、口内炎、多発性口内炎、放射線性口内炎など)
 → 含嗽薬・トローチ p.33～36
 → 軟膏 p.36～39
 → 漢方薬 p.45～47
 → ビタミン p.48、49
 → 副腎皮質ステロイド p.51、52

口内炎、口角炎に処方できるビタミン剤は？

口内炎、口角炎に処方できるビタミン剤は？

8 | ビタミン

一般名 **フラビンアデニンジヌクレオチド (B₂)**
 (代表商品名：①フラビタン[®] ②FAD)

- 歯科の適応** ①口角炎、②口唇炎、③舌炎、④口内炎
- レセプト上の病名 ICD-10**
 - ①口角炎
 - ②口唇炎
 - ③舌びらん、舌炎、舌潰瘍
 - ④再発性アフタ、アフタ性口内炎、口内炎、多発性口内炎、難治性口内炎
- 用法・用量** FADとして、1日5～45mgを1～3回に分割経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。
- 併用禁忌薬** なし
- 処方上の注意**
 - ・剤型には錠5mg、10mg、腸溶錠、シロップ0.3%がある。
 - ・ビタミンB₂欠乏又は代謝障害が関与すると推定される場合に使用。

【用法】 1日5～45mgを1～3回に分割経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。

【用法】 1日5～45mgを1～3回に分割経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。

【用法】 1日5～45mgを1～3回に分割経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。

【用法】 1日5～45mgを1～3回に分割経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。

【用法】 1日5～45mgを1～3回に分割経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。

【用法】 1日5～45mgを1～3回に分割経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。

【用法】 1日5～45mgを1～3回に分割経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。

【用法】 1日5～45mgを1～3回に分割経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。

【用法】 1日5～45mgを1～3回に分割経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。

【用法】 1日5～45mgを1～3回に分割経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。

【用法】 1日5～45mgを1～3回に分割経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。

【用法】 1日5～45mgを1～3回に分割経口投与する。年齢、症状により適宜増減する。